

平成 26 年度の業務について（SC14 出張報告）

二ツ寺 政友

情報社会基盤研究センター

概要

平成 26 年度の業務について報告します。昨年度は全体的な記載の形で書きましたので、今回は一つの話題に絞り、SC14 へ JAIST ブースを出展しブース要員として出張してきたことについて述べます。来訪者とのやり取りを楽しむことができたのは収穫でした。一方で、英語のリスニング能力、定型文以外の発話の能力、語彙力は相変わらず向上の必要あります。ポスターの展示方法をパネルからタペストリーに切り換えたことでポスターが格段に見やすくなりました。また、出展の準備にあたる上で、事前にもっと長い時間をかけて学内からいろいろな協力を得られるように進めていくことが、よりよいブース展示への課題であると感じました。

SC14 出張報告

SC は HPC（High Performance Computing）とその計算機の稼働に必要な各分野の技術・製品等に関する学術発表や各社・各研究機関の展示等が行われる国際会議で、毎年 11 月にアメリカ合衆国内で開催されています。情報社会基盤研究センターでは例年技術職員も含めて SC に参加しており、さらに平成 20 年からは自前で JAIST としてのブースを、センター教員の研究室や、他の大型計算機ユーザの協力を得ながら出展し続けています。SC14 はルイジアナ州ニューオーリンズにある Ernest N. Morial Convention Center で開催され (<http://sc14.supercomputing.org/>)、私もブースの一員として参加しました。Conference は 2014 年 11 月 16 日から 21 日、Exhibition は同 11 月 17 日から 20 日の間に開催されました。会場外観の写真を図 1 に示します。

JAIST ブースは幅 20 フィート（約 6 メートル）・奥行き 10 フィート（約 3 メートル）の大きさで、A0 縦のポスターを 7 枚、大判プリンタを使ってクロスに印刷し両端に部材を取りつけてタペストリーを作り掲示しました。また、JAIST 紹介の動画と、佐藤グループで開発したツールのデモンストレーション動画などを、持ち込んだ iPad と現地でレンタルしたモニタとを使って放映しました。ポスターの内訳は JAIST 全体、情報社会基盤研究センター（それぞれ二ツ寺）、もう 1 枚情報社会基盤研究センター（宇多先生）、井口研、佐藤グループ、前園先生、本郷先生が各 1 枚でした。これまでのブース展示ではアルミフレームを使ってポスターを展示していましたが、今回初めてタペストリー形式にしました。タペストリーですと透明なプラスチック板などがなく直接掲示できるので照明の反射や周囲の物の映り込みなどがなく、ポスターは格段に見やすくなりました。また、他ブースにてプラスチック製のタペストリー部材が掲示物の重さで曲がってしまっていて見にくくなっているのを見かけましたけれども、私たちはアルミ製部材のものを使っていたので結果的に正解でした。一方で、タペストリー部材に巻き付けた後の印刷クロスの固定が十分でなく、ずり落ちてきてしまったことがありました。これ以降、情報センターではタペストリーの使用が本格化しています。

そのほか、ポスター展示や動画放映に加えて、JAIST は日本の国立の大学院大学であるというこ

とをアピールする必要があるとかねてから考えていたところへ国際交流課でロールアップバナーを持っていることを知りましたので借用し持ち込み展示しました。さらに、日本から SC に参加する人たちに向けてと考え、開催日の近づいていた JAIST シンポジウムのポスターも掲示しました。ブースの写真を図 2 に示します。

ブース来訪者には情報科学研究科の上原先生からのご協力でちょうどいた「紙折りパズル」をお渡ししました。これは来訪者からの反応がとても良く、ブース店番をしているこちらも楽しめました。持ち帰った後に「解けた」とうれしそうに見せに来る人や、「この折り方で合っているのか?」と見せに来る人、「自分で解くからそれまで答えを教えるなよ」と言う人、「自分の生徒に挑戦させたいのでもっと分けてほしい」と言う学校の先生らしき人など、いろいろな人がいました。パズルについてのやりとりをきっかけに、JAIST や掲示してあるポスターなどの紹介にできるだけ持ち込むように努めました。うまく行かないことももちろんありました。

以前の SC 出張報告の内容と重なる部分も出てしまうのですが、自分が英語で話しかけたいことについては、あらかじめ頭の中である程度組み立ててからしゃべるので比較的問題ないのですけれど、それに対して来場者が返答してきた際に聞き取れないことが多いです。また、他ブース視察時などに、テクニカルタームや計算機の諸元などのこちらで読み取り可能な内容以外の場合において、結局何が書いてあるのか、何をしゃべっているかわからず、ただ眺めるだけとなってしまいます。これを逆の視点から考えますと、JAIST のブースの中にいる人には英語が通じなかつたと思ってわれわれのブースを素通りして行く人もいるのかも知れません。日本などの、英語を母語としない国から来ているブースも展示ではもちろん英語が使われています。英語の、特にリスニング能力、定型文以外の発話能力、語彙力を向上させたいです。また、説明すべき内容や会場にてお願いしたいことなどは予め情報センター側でまとめた上で、学内で国際的な業務に携わっている職員の協力を得ることも、JAIST をより広くアピールする上では大切なのではないかと常に感じています。

SC14 の準備の過程で、私たちのブース出展は言わば「おれおれ JAIST アピール」としか学内でも見てもらえていないなと思わされる経験をしました。学内での何らかの支援をお願いしやすくするためにも今後はより時間をかけてしっかり進めていき、よりよいブース展示へとつなげて行けたらと思います。今回の出展にあたり国際交流課からロールアップバナーを借用しブースに展示できたことは一歩前進だと捉えています。SC15 はテキサス州オースティンで開催されます。もしまた技術職員にも出張機会が与えられる場合には手を挙げるつもりです。

おわりに

平成 26 年度の業務について、SC14 出張を採りあげました。これを書いている平成 27 年 7 月時点では、まったく新しい内容の業務も与えられ、仕事が始まっています。新しいことに取り組んでいる時の新鮮な気持ちを忘れずに、日々の業務を通して JAIST 内外の方達のお役に立ちながら、人の役に立つだけでなく自身も成長して行きたいです。皆様今後ともどうぞよろしく申し上げます。



図 1 用務先（会場）外観

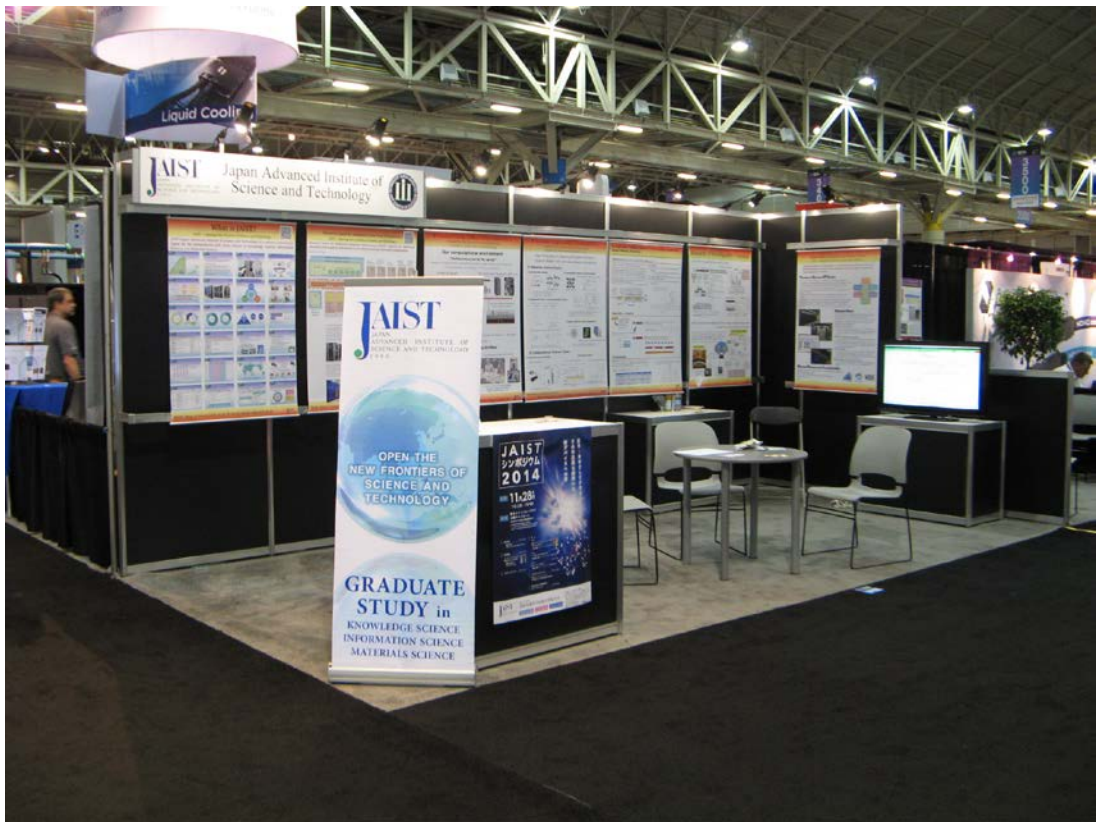


図 2 JAIST ブース